8　芸術（書道）

学校番号	１０８

平成３１年度　芸術科（書道）

教科	芸術	科目	書道Ⅲ	単位数	２単位	年次	3
使用教科書	「書Ⅲ」　（教育図書）						
副教材等							

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・書道ⅠとⅡの授業で学んだことを発展させて、書道Ⅲでは様々な表現の書の鑑賞や制作を通して幅広く知識や技能を学びます。
・自分らしい表現や発想を基に文字を書くことをめざします。
・身近に置いて飾れる作品や長く手元に残しておきたいと思えるような作品を作り達成感を味わい、書を愛好する心情を育てます。

2　学習の到達目標

書道の幅広い活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、書写能力の向上を図り、表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばす。書の伝統と文化についての理解を深める。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:書への関心・意欲・態度	b:書表現の構想と工夫	c:創造的な書表現の技能	d:鑑賞の能力
観点の趣旨	書の創造的活動の喜びを味わい、書の伝統と文化に関心をもって、主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとする。	書のよさや美しさを感じ取り、感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫している。	創造的な書表現をするために、基礎的な能力を生かし、効果的に表現する技能を身に付け表している。	日常生活の書の効用や書の伝統と文化について幅広く理解し、その価値を考え、書のよさや美しさを創造的に味わっている。
評価方法	観察 ワークシート	観察 ワークシート 提出作品	観察 ワークシート 提出作品	観察 レポート ワークシート

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 学習の活動

学期	題材名	学習内容・活動	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
一学期	臨書作品の制作	・書道ⅠからⅢまでの教科書から一つの古典を選ぶ ・半紙に12枚以上臨書し、折本として仕上げる ・選択した古典について、時代や背景をふまえてレポートを作成する		○	○		a:これまで学んできた古典の学習を踏まえて多様な表現を理解し、積極的に制作に取り組もうとしている。 b:様々な古典から主体的に選択・制作し、表現を工夫している。 c:古典の特徴を、用筆や書体の特性など多面的に理解し身に付け表現している。 d:書道史の大きな流れを理解し、書の文化と伝統の良さや素晴らしさを味わっている。	観察 レポート ワークシート 提出作品
二学期	創作作品の制作	・掛軸の制作 (画仙紙を用いて大きさ・選文は、各自で決定する。仮表装する) ・藍染作品制作 (白布にろうで文字を書き染める。) ・漢字仮名交じり書作品の制作 (画仙紙の全紙を用いて歌詞をテーマに書く。自ら選文する。)	○		○	○	a:様々な用具用材や表現技法について関心を持ち、表現や鑑賞の活動に意欲的に取り組もうとしている。 b:用具用材の特性を理解し、表現を工夫している。 c:作品完成までの手順や制作の意図を理解し、的確に表現している。 d:日常生活と書の関わりを理解し、その良さや美しさを味わっている。	観察 ワークシート 提出作品

三学期	実用書	・細字作品の制作（五言律詩を半紙に小筆で書く） ・色紙作品の制作（「書を贈る」をテーマに自由にかつ相手を想定して書く）	○		○		a:課題に関心を持ち、表現や鑑賞の活動に意欲的に取り組もうとしている b:課題の主旨を理解し、表現を工夫している。 c: 集中力や発想力、多様な筆の扱い方を身に付け表現している。 d:テーマに沿った作品制作の意図を理解し、その良さや美しさを味わっている。	観察 ワークシート 提出作品

※　表中の観点について　a:書への関心・意欲・態度　　b:書表現の構想と工夫
　　c:創造的な書表現の技能　　d:鑑賞の能力

※　原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。